

くりまっこ

元気いっぱい 笑顔あふれる 栗真の子

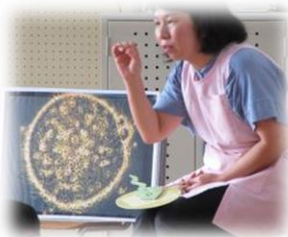


低学年で「いのちのお話」の授業を実施しました！

9月9日(火)2限目に、助産師の前田亮子さんから、命の始まりである受精卵のことや、おなかの中で胎児がどのように育っていくのかということをお話いただきました。また、命が誕生するまでの母親や家族の思いや、命がけて出産にのぞむ母親とともに、赤ちゃん自身もがんばって産まれてきたこと、そして、多くの人の祝福があって産まれてきたことなどもお話いただきました。さらに、産まれてきたことによって、まわりの人たちを幸せな気持ちにさせていたのだということ、たった1つの自分の命とともに、友だちの命も大切にしていかなければならないことなど、一人ひとりの自尊感情を高められるような内容でまとめをしていただきました。ほかにも、赤ちゃんの心音と子どもたちの心音を聞き比べしたり、成長していくごとに大きくなっていく胎児の人形を抱かせてもらったりもしました。子どもたちは自分もこんなふうには育ってきたんだなということを知り、目を輝かせている子が多くみられました。



子どもたちは、この授業を通して、自分たちが生まれてくるのを家族が楽しみにしてくれていたことを知り、自分たち一人ひとりが大切な存在であることに気づくよい機会となりました。そして、自分たちが「生きている」ということだけで周りの人を幸せにしている、とても大切な存在であるということも知ることができました。今回の学習をきっかけに、子どもたちがお互いに大切な存在であることを意識して、友だちとかわり合っていくことができたらと思います。



栗真小学校では、この日のように、低学年で助産師さんによる「いのちのお話」の授業を行うことになっています。2年生は前年を思い出しながら助産師さんの話をよく聞くことができていました。

1年生は来年もまた、助産師さんに会えることを楽しみに今回の学習を終えることができました。毎年同じような内容になりますが、2年続きで学ぶことによって、「命のかけがえのなさ」をしっかりと理解することができると思います。



意外と知らない豆知識 – ゲーム依存・スマホ依存に陥らないために –

世界保健機関（WHO）は2019年5月25日、ゲームのやり過ぎで日常生活が困難になる「ゲーム障害」を国際疾病として正式に認定しました。スマートフォンなどの普及でゲーム依存の問題が深刻化し、健康を害する懸念が強まっていることから、ギャンブル依存症などと同じ精神疾患と位置付けられたのです。ゲーム依存については、以前から、子どもたちの健康的な生活習慣にはよくないであろうと、様々な場面で言われていましたが、今回、ゲーム依存症が疾病であると位置づけられたわけです。ゲーム依存症による具体的な症状は、主に次の4つになります。

- ① ゲームをする衝動が止められない。
- ② ゲームを最優先する。
- ③ 問題が起きてもゲームを続ける。
- ④ 個人や家族、社会、学習、仕事などに重大な問題が生じる。

夜遅くまで、朝から、
ゲームをしている子
は、いないかな!!

これら、4つの症状が、12ヵ月以上続く場合にゲーム依存症と認定され、治療が必要になります。特に幼少期については進行が早いとして、重症である場合には、それより短い期間で依存症と診断されることもあります。

子どもたちは、日常の学習や運動等、様々な教育活動で努力をしてその成果を出すことで喜びを積み重ねていきます。しかし、現実世界での努力よりも、ゲームの中での達成感を優先するようになると、子どもたちを健全に育てる点において、深刻な状況になります。なかには、「ゲームの中の自分」が「現実世界の自分」よりも優位に立ってしまっている様子が見られる子どもも増えてきているそうです。ゲームに関わって様々な問題が生じてきています。楽しいはずのゲームがトラブルに繋がることのないようにするために、各ご家庭においても、お子さんと話し合っていただきたいと思います。

また、お子さんの携帯電話やスマートフォン等の利用についても、家庭のルール作りが大切です。スマホ依存になりがちな子は、家庭学習に取り組んでいる時にも、スマホが気になります。ラインやメールで、いつ連絡が来るのか、常に気にしています。また、すぐに返信しないと落ち着きません。当然、学習への集中力は無くなっていきます。小学校時代は子どもたちの学力が伸びていく時期です。その学力を大きく伸ばしていくためにも、健康的な生活習慣を身に付けさせることが重要です。まだ、スマホ等を与えていない家庭でも、中学生になる頃には、その必要性から買い与えざるを得なくなっている時代です。SNS等による被害も毎日のように目にします。安全のために買い与えたスマホにより、危険にさらされることも起こり得るのです。

ゲームもスマホも、健康に良くないから、危険だから「禁止」というのではなく、何を守らないと健康に良くないのか、危険にさらされるのかなど、お子さんと話し合い、自分自身でコントロールできるよう育てていく必要があります。

学校でも折にふれ、子どもたちに指導をしていきますので、ご家庭でもお子さんと一緒に考え、話し合う機会を持っていただければと思います。